

緑の相談所だより

第52号

初夏～夏号 1998. 6. 1発行 編集：旭川市緑の相談所

講習会のご案内

お申し込みは☎65-5553

7月5日(日)

午後1時～3時

病害虫の防除

講師 旭川市緑の相談所
相談員 佐藤文男
定員 50名 無料

7月26日(日)

午後1時～3時

親子で楽しむ

押し花絵づくり

講師 柳川押し花 谷口輝子さん
材料費 500円(税込み)
持ち物 ハサミ、ピンセット、文ちゃん。
定員 親子30組

親子でつくる

野草ガイドブックづくり

8月1日(土) 1回目 植物採集
午前10時～12時

8月14日(日) 2回目 ガイドブック仕上げ
午前10～12時

講師 旭川市立大有小学校
教諭 福地徳次さん

◇定員 親子30組
◇材料費 400円(税込み)
◇持ち物 電話帳
(押し花に使用)



◎お知らせ……………6月30日緑の相談所ロビーにて旭川ばら会によるバラの展示会
が開催されますので、たくさんの方のご来所をお待ちしています。

ラベンダー

科名 シソ科 常緑小低木

原産地 地中海沿岸

花期 6~8月

花、茎、葉すべてに香りがあるラベンダーは、人気のたかいハーブです。

耐寒性がありますが、高温多湿が苦手で、日当たりがよく

風通しのよい場所で育てます。

収穫は花が咲きすぎると香りがとんでしまいますので、

4~5輪咲いたところで葉を4枚つけて摘み取ります。

古くから薬用効果が知られ、ヨーロッパでは匂い袋を

枕元に置く習慣があり、催眠効果を利用したものです。

エッセンシャルオイルは、高級化粧品の香料として使

われています。



レモンバーム / セイヨクヤマハッカ

Lemon Balm *Melissa officinalis*

シソ科

つみたての葉はレモンの香りがします。ポフリやビローにしても香りが楽しめます。黄色がかって白い小さな花を夏から秋にかけてつけます。



カモミール / カミツレ

Chamomile *Chamaemelum nobile*

キク科

ハーブティーには花を使い、風邪や冷え症、消化促進のほか、気持ちをリラックスさせてくれる効果があります。リンゴの香りがします。バスハーブにすると神経痛に 化粧水は肌の弱い人にも安心して使えます。



バジル / メボウキ

Basil *Ocimum basilicum*

シソ科

イタリア料理のバジリコのことで、トマト料理にはオレガノの有力なパートナーです。

香り煙草にすると、頭痛や鼻炎をおさえます。



よく知られるハーブたち

家庭菜園の手入れ

家庭菜園も種々の野菜苗の定植、種子まきも終わり、順調に伸び始めている最中でしょう。

野菜の生育のよしあしは、これまでは苗次第、まき方次第でしたが、これからが本当の腕の見せ所になります。野菜の生長伸び方は早く油断すると必要な手入れのタイミングが遅れ、不満足な結果になることがよくありますので目が離せません。

果菜類

- ・側枝と整枝 ~ トマト等葉の付け根から盛んに新芽（側枝）を伸ばしてきます。早めに欠きとります。
ナス、ピーマンの枝分かれした太い茎の下部からでる側枝も同様
キュウリは根元から6～7節までにする雌花と側枝はとります。
以後各節の葉の根元からでる側枝は葉2枚を残し先を摘みます。
カボチャは根元に近い太いツル2～3本をのぼし、各ツルからの側枝は雌花がでるまで欠きとります。
- ・授粉と摘果 ~ ムシが飛ばないように寒い日に咲いた花には人の手で花粉を付けるか着果ホルモンを利用します。
カボチャ等は雨の降りそうな日の前日に雄花雌花両方に袋を掛けておき、雄しべ雌しべを濡らさないように準備します。
ナスピーマン等の実が何日たっても太らない場合は思い切ってその実をとり捨てます。
- ・病虫害 ~ 若い葉が巻きだしたらアブラムシ、葉の色が薄れてきたらダニ発生の疑いがあります。兆候が見えたら早めに防除
葉に白や茶褐色の模様が見えたら病気の発生です。見つけしだい早めに防除、伝染を食い止めます。
- ・追肥 ~ 最初の実が太りだしたら追肥の時期。速効性の化成肥料等株元から離し少量施します。葉が旺盛に繁っていたら不要。過剰は厳禁

葉根菜類

- ・間引き ~ 芽が沢山出てきたら余分な株を2～3回に分けて間引き、作物の大きさに応じた株間に広げ1株にします。
キャベツ等 50cm×40cm ホウレンソウ等 20cm×10cm
ダイコン等 40cm×40cm ニンジン等 15cm×20cm
- ・種まき ~ 摘み菜、ホウレンソウ、ハツカダイコン等10日間隔で種をまくと毎日収穫が楽しめます。
- ・施肥 ~ 基肥を施してあれば不要。葉の色が薄れてきたら化成肥料を株間に少量施します。
- ・病虫害 ~ アブラムシ、ヨトウムシ、アオムシ等発生初期に捕殺または防除
葉に茶褐色の斑点が見えたら病気です。被害葉を摘除するか防除で蔓延を防ぎます。
- ・除草 ~ 葉根菜類は草丈が低いので特に雑草に負けやすく、また病虫害の発生源にもなりますので手まめな除草が必要です

六月の園芸作業

- * 露地・花壇・・・夏花壇用の苗の移植は上旬から。中旬には夏花壇の植え込み。春花壇を作らなかった場合は上旬から夏花壇の植え込み。露地の草花では、ハナショウブやアヤメ類、プリムラの仲間の株分けは花の後で。宿根草への追肥、球根類の花がら摘みも忘れずに。
- * 鉢花・・・伸びすぎてしまっている茎葉は切り詰めて形を整える。葉挿し、茎挿し、芽挿しによる繁殖は中旬以降。花木類や木物の緑枝挿しは下旬から来月の初めにかけて。サツキ、シャクナゲ類で植え替えの必要なものは花の後で。シャクナゲは花が満開になったら早い時期に花を摘む。山野草は中旬から朝夕のシリンジ（霧水）が効果的。全般に風通しを良くし光を良く当てるが、エビネやオモト、地生蘭などは必要に応じて光の量を調節しながら管理する。屋内の鉢物も出来るだけ外の空気にあてるが、上旬、晩霜の心配があるときは屋内に取り込む。アブラムシ、ダニが勢いを盛り返してくる時期、他の病気や害虫も含めて定期的な防除に心掛ける。
- * 観葉植物・・・中旬以降、晴天のときは種類に応じて適度の遮光をする。鉢替え、株分け、挿し木、取り木の適期です。空気が乾燥する時期になり、また戸外に出した鉢は乾きやすいため湿度の維持、灌水に注意し、鉢花に準じて病害虫の防除にも心掛ける。
- * 洋蘭・・・乾燥を嫌うパフィオペデルムを除いて中旬からは戸外で管理できる。日光は葉焼けのしない範囲で強い方が良いが遮光の準備をしておき、午後からの直射日光は避けたほうがよい。風通しを良くし、リードバルブが伸びている株は極端な乾燥を避け、休眠中の株は乾かし気味に管理する。休眠中の株には肥料は与えない。夕方、葉にシリンジをすると生育、ダニの予防にも効果的。油粕主体の置き肥は月に一回新しいものと置き換える。
- * 盆栽・・・上旬は芽摘み、葉刈りの時期。肥料は吸収の最も多い時期、置き肥、液肥とも定期的に。害虫ではカイガラムシの発生が多い。カルホス、スブラサイドの定期的な散布をする。
- * 庭木・果樹・・・イチイ、ヒバの刈り込みは中旬まで、それ以降は木の生育に悪い影響があるので行ってはいけない。風通し悪いところを中心にカイガラムシの発生が多くみられるようになる。発生したら盆栽と同じ農薬を7～10日おきに3～4回、定期的に散布する。

七月の園芸作業

- * 露地・花壇・・・暑い季節には咲いた花の寿命も短く、また植物の体も弱るので、日中の疲れと塵などの汚れを夕方のシリンジで洗い流し、花がらは摘み取ります。全体的に花が一段落したキンギョソウやサルビアなどは切り返しをしてやると、次の花上がりか揃う。春咲きの球根類は葉の色が黄変しはじめたら掘り上げて陰干し、お盆過ぎまで風通しの良い涼しい場所に貯蔵する。来年の春花壇に使用するパンジーは下旬早々に播種し、暑さを避け日除けの下で発芽させた後日光に良く当てて管理する。シンクイムシ、マイマイ、アブラムシなどの駆除を丁寧に。
- * 鉢花・・・上旬は生育も盛んで花が咲き続ける時期で肥切れに注意するが、中旬以降の約1ヶ月は肥料はやらないか、極薄い液肥に切り替える。水やりは午前中の早い時間に行い、日除けも適宜行う。夕方のシリンジは鉢物全般に有効。山野草は涼しい環境が良い。熱帯花木は外の強光に当てながら、花付きの悪いフジやウメは、“葉が萎れたら水をやる” といわゆる水切りを繰り返す、枝や蔓の伸びを抑えると蕾の付きが良くなる。春咲きの山野草の採種も適期で、名前や貯蔵法などは種類に応じ適切におこなう。埃りと乾燥でハダニ類が、高温でアブラムシ類が発生するので定期的な防除をするが、農薬は気温の低い朝夕に散布する。一般に挿し木は上旬まで。サボテンの挿し木は今月中で終える。
- * 観葉植物・・・部屋の中での鑑賞は涼を呼んで楽しい時期。全般に生育が盛んになるが日中は適温を超えることもあるので、乾燥と日焼け、肥料切れに注意。挿し木は中旬までに終える。
- * 洋蘭・・・種類により60%～70%の日除けをする。気温が高すぎる日も多くなるので出来るだけ涼しく、風通しよく管理し、雨の日以外の夕方のシリンジが有効。乾いた風と埃りでハダニ類がつくので注意。シンビジウム、デンドロビウムの置き肥は中旬で取り除く。
- * 盆栽・・・花物はこれからの時期乾かし気味に管理すると来年の花付きが良くなる。葉物・実物は水切れに注意する。広葉樹の葉刈りは上旬で終える。春針金掛けをしたものは生育の程度を見て、特に雑木類は早めに一度外し、巻き直しは八月の中旬以降涼しくなってから行う。全般に日当たりが良く、風通しの良い場所で管理するが、西日は避ける。カイガラムシ、ダニ、アブラムシの防除。紅葉を楽しむカエデ類などは葉を痛めないように強い風を避けて管理すると共に中旬以降は肥料をやらない。
- * 庭木・果樹・・・中旬にリンゴ、ナシの最後の摘果。シンクイムシの被害が毎年続いているところでは袋掛けをするとよい。各種の緑枝挿しは上旬中に。木の伸びが止まって成熟する時期、来年の花や実を楽しむものはこの時期の刈り込みは厳禁。夕方、日中の埃り落としを兼ねてのシリンジは効果があります。ハマキムシ、アブラムシ、ダニなどの防除。